

宇城郡市中体研

理事長 今田 圭哉

1 はじめに

宇城郡市中学校体育研究会は樹本龍次会長（美里町立砥用中学校）を中心に11校の体育担当者19名で組織されており、11校中8校は体育担当者が1名の小規模校である。

今年度は、「主体的・対話的な学びを通して、『生きる力』をはぐくむ保健体育科学習の在り方」～『分かる・楽しい』授業づくり5つの心得』の実践を通して～の研究テーマを設定し、授業実践を中心に研究を進めた。

2 研究組織

会長 樹本龍次 (砥用中)	研究委員長 今田圭哉 (中央中)	研究委員 佐藤達朗 (小川中) 宮崎泰裕 (網田中) 西村恭平 (三角中)	指導法研究部会 (松橋中・三角中・不知火中)
			授業研究部会 (鶴城中・住吉中・網田中・宇土中)
			授業実践部会 (小川中・豊野中・中央中・砥用中)

3 活動状況

月 日	場 所	概 要
4月21日	松橋中学校	第1回教科等研 ○組織づくり、研究テーマの設定等 ○各部会の年間計画作成
7月27日	玉名市総合体育館	令和5年度熊本県中学校体育研究会夏季研修会 (指導法研究部会参加) ○学習構想案検討会 ○保健体育指導法講習会「バドミントン」
10月23日	鶴城中学校	授業研学習構想案検討会 ○第2回教科等研授業研に向けての学習構想案検討
11月6日	鶴城中学校	第2回教科等研 ○公開授業 第3学年 「E球技 イ ネット型 「バレーボール」 授業者 古川 彩香 教諭(宇土市立鶴城中学校) ○授業研究会
11月22日	人吉カルチャーパレス・人吉スポーツパレス	第50回熊本県中学校保健体育研究発表大会参加

4 研究テーマ

「主体的・対話的な学びを通して、『生きる力』をはぐくむ保健体育科学習の在り方」
～『分かる・楽しい』授業づくり5つの心得』の実践を通して～

5 研究の概要

(1) 授業研究

研究授業 授業者 宇土市立鶴城中学校 古川彩香 教諭

11月6日に鶴城中学校にて、単元「E 球技 イ ネット型 バレーボール」(第3学年)の研究授業を行った。今回は、『『分かる・楽しい』授業づくり5つの心得』の中の心得1『何を学ぶのか』が分かる、必然性のあるめあての提示」と心得3「めあてに沿って、『じっくり考え、はっきり表現』させる場の設定」に焦点を当てて授業実践を行った。

心得1『何を学ぶのか』が分かる、必然性のあるめあての提示では、単元を通した学習課題の解決につながるように、これまでに生徒が感じた課題から本時のめあてを設定し、何ができるようになりたいか、どんな技能を身に付けたいのかが明確に分かるようにした。本時では、「得点に結びつく攻防をするためのチームの動きについて考えよう。」というめあてを設定した。このめあてには、前時までの活動で生徒が感じた課題を基に、より効果的に得点するためのチームの動きはどのようにすればよいだろうかということを生徒に考えさせたいという授業者の意図が込められている。このように、生徒の振り返りや活動の様子からめあてを設定することで、「必然性のあるめあての提示」の実現に迫ることができるよう意識した。



前時の振り返りを踏まえためあての提示

心得3「めあてに沿って、『じっくり考え、はっきり表現』させる場の設定」では、何ができるようになりたいか、どんな技能を身に付けたいかについて、基礎的・基本的な知識や技能を活用して自分の考えを持たせ、互いに意見を交流させる場を設定した。話し合いの場面では、何について考え、話し合うのかという視点をより明確にするために、ミーティングシートを活用した。本時では、「得点に結びつく攻防をするためのチームの動き」についてチームで考えさせた。各班活



チームミーティングの様子

発な話し合いが行われており、各々が自分の考えを表現することができていた。また、話し合いをチーム内だけでとどめるのではなく、各チームのミーティングシートをホワイトボードに掲示し、それを見ながら全体で意見の交流を行い、他の班の話し合いについて知ることができる工夫もされていた。

授業研究会では、生徒の主体的な姿に対し称賛の意見が多かった。授業者からも、今回の取組の工夫により、運動が苦手な生徒もより積極的に活動することができるようになったと評していた。改善の工夫を要すると思われる点に関しての意見では、「得点に結びつく動き」の具体例を提示すると、より生徒の学びやすさに繋がったのではないかと、という意見や、ミーティングシートの内容の改善を図ることでより活発な意見交流ができるようになるのではないかと意見があった。

6 研究の成果・まとめ

宇城で取り組んでいる『『分かる・楽しい』授業づくり5つの心得』の実践を意識した授業づくりについて、多くの先生方の知識や経験を出し合い、研究を深めることができた。宇城地区では、保健体育科の教員が一人の学校が過半数を占めるため、今後も学校の枠を超え、宇城全体で連携し、子ども達の「生きる力」の育成に向けて研究を進めていきたい。